

第5回とちぎ夢大地応援団活動報告(令和3年12月11日実施)

那珂川町 小砂地区「シジュウカラの巣箱づくり」

那珂川町小砂地区で令和3(2021)年度第5回とちぎ夢大地応援団活動を行いました。透き通る冬空、朝冷えが身にしみる始まりでした。

参加者は、応援団員12名、関係者11名の計23名でした。

当日は、町内にある“みんなの森”を中心とする里山の保全活動の一環として、生態系を守ろうとするため、そこに生息するシジュウカラの巣箱を制作し、設置を行いました。

作業の初めは、小砂焼陶芸の里体験センター組合長である藤田さんから、小砂焼の歴史や作業の経緯や、焼き物の土を採取する山が、管理する人たちが高齢化でいなくなり、草木が生い茂り、荒れ放題になってしまったこと、これを有志で少しずつ管理し、ようやく以前の姿へ戻しつつあることの説明がありました。

今回参加された応援団の方達は、家族連れも多く、また、学生の姿も見られました。ある高校生は、「初めて、金槌で釘を打ち、のこぎりで木を切った。私たちの活動は小さな事だけど、いつかきっとシジュウカラの親子がこの山を守ってくれることを祈りたい」と感想を述べてくれました。



▲作ったシジュウカラの巣箱と一緒に記念撮影。ステキな巣箱が沢山できました。



小砂焼陶芸の里体験センター組合長藤田さんからこの地区の紹介がありました。かつての水戸藩に端を発する小砂焼を守るため、有志で里山の保全活動を行っているが、近年では、その担い手がいない。皆さんの力を貸して欲しいといった内容でした。



親子でシジュウカラの巣箱をつくる様子も見られました。お父さんが息子さんへ釘の打ち方を指導しています。お父さんの面目躍如ですね。中々、ご家庭ではこのような風景は見られないのではないのでしょうか・・・。

きっと、多くの小鳥たちも喜んでくれると



巣箱を設置している様子です。だいたい、4～6mほどのところへ設置しました。藤田さんのお話では、設置する木は、生きているものが良く、あまり枝がないところへの設置が良いそうです。これは、外敵から鳥を守ることを意味しています。



お昼のランチ風景です。地元の食材をつかったお弁当で、食べきれないほどのボリュームでした。この間は、応援団の方たちと地元の方との貴重な意見交換の時間でもありました。「今回の活動を多くの知人へ紹介します。」といった、心強い言葉もありました。